

社会的インパクト評価イニシアチブ第1回全体会合

イニシアチブの現状と年間計画について

2016年8月5日

社会的インパクト評価イニシアチブ事務局

社会的インパクト評価の推進に向けて（概要）

～社会的課題解決に向けた社会的インパクト評価の基本的概念と今後の対応策について～

平成28年 3月
社会的インパクト評価検討
ワーキング・グループ報告書

1. なぜ必要なのか

- 国際的な潮流：資金の出し手の姿勢が変化（より成果を求める流れ）
- 日本の現状：社会的課題が多様化・複雑化。意欲のあるあらゆる主体が知恵や技術を最大限発揮し、成長できる環境が必要
- 社会的インパクト評価は社会的課題の解決力を高める礎
 - 評価を通じ事業・活動の内容や方法を不断に見直し、組織運営の改善を図ることで組織が成長。
 - また、説明責任につなげていくことで資金、人材が公益活動に参画し、新たな手法を生み出すイノベーションをもたらす。

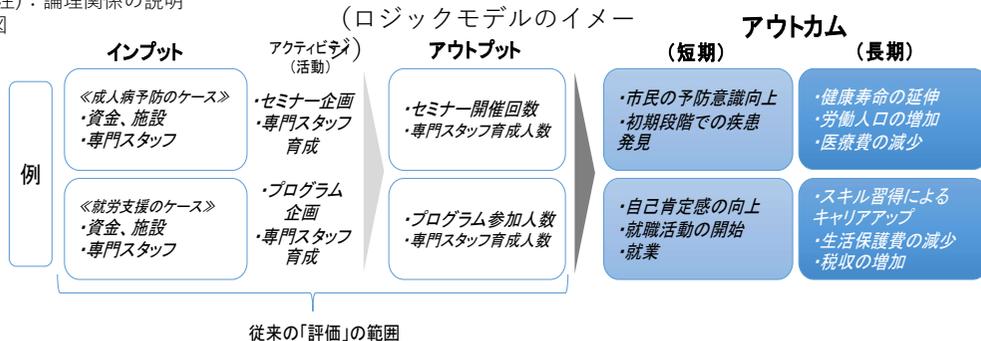
2. 社会的インパクト評価とは

社会的インパクト：短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的な「アウトカム(効果)」
社会的インパクト外評価：社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えること

（社会的インパクト評価の特徴）

- ・アウトプット評価に止まらず、その先のアウトカムを評価
 - ・「ロジックモデル^(注)」を活用し「インプット」、「アウトプット」から「アウトカム」に至るまでの論理的な結びつきを明らかにする。
- ⇒事業計画の実効性や事業成果に関する**説明責任**へ（⇒更なる資源獲得）
 ⇒評価を通じた課題等の発見が、事業や組織運営の改善へ（**学び・改善**）

(注)：論理関係の説明
図



（評価の意義・効果の例）

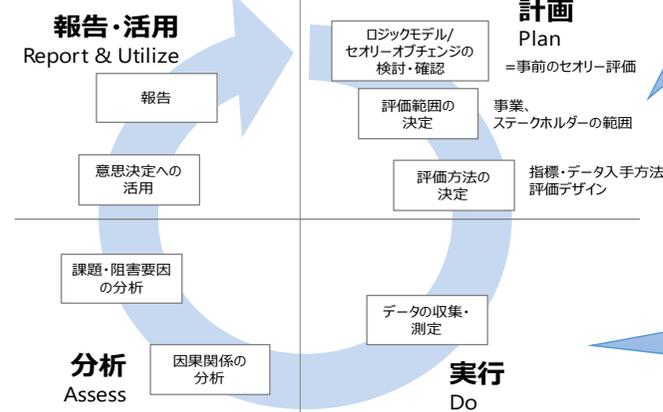
- ・事業者：人材・資金の獲得、事業改善・組織管理・運営の向上 等
- ・資金仲介者：資金の有効性の根拠、事業・活動の進捗・業績把握 等
- ・資金提供者：支援先の組織、事業・活動内容、実現可能性の判断材料 等

（評価の原則（例））

- ・重要性、比例性、比較可能性、利害関係者の参加・協働、透明性

3. どのように行うのか（評価の方法）

（評価過程（プロセス））



事業の計画段階からロジックモデル/変化の理論の確認作業を利害関係者がコミュニケーションを図りながら行う。

定量データ、定性的情報双方を活用することが望ましい。

（分析手法の例）

	概要
事前・事後比較	事前・事後の指標値を比較
時系列	事業実施前と後のトレンドの変化を比較
クロスセクション	一時点で地域や個人間の事業実施状況とアウトカムの相関関係をみる
一般指標	全国平均値などの一般指標値と比較
マッチング	実施グループとそれに近いグループを選定し比較
実験的手法	無作為割付けにより実施グループと比較グループに分け、その差を比較

4. 普及に向けた課題と対応策

（課題）

- ①意義や必要性に対する「理解不足」、
- ②手法に対する「理解不足」、
- ③手段（ツール）の不足、
- ④基礎的な情報の未整備、資料の不足、
- ⑤評価人材の不足、
- ⑥評価コストの負担と支援の在り方

（対応策：今後1年以内に着手すべき主な取組）

- ①評価普及のためのシンポジウム開催と「評価推進フォーラム」の立上げ
- ②「評価宣言」と「ロードマップ」の作成
- ③評価に関する用語の邦訳と定義の明確化
- ④「変化の理論」「ロジックモデル」等基本ツールの手引書（日本語）整備
- ⑤海外の先行文献のリスト化と主要文献の邦訳化
- ⑥評価の担い手の育成を目的とした講習会の実施とモデル事業
- ⑦評価事例（ベスト・プラクティス）蓄積とピア・レビュー実施による知識共有化

普及に向けた課題と対応策（内閣府WG報告書）

課題

- 意義や必要性に対する理解の不足
- 手法に対する理解の不足
- 標準的な手法や指標、手段（ツール）の不足
- 土台となる用語の定義や海外文献の日本語訳などの、基礎的な情報の未整備、資料の不足
- 評価人材の不足
- 評価コストの負担や支援の在り方

対応策（着手すべき主な取組）

- インパクト評価普及を目的としたシンポジウムの開催と評価推進に関するフォーラムの立上げ
- 関係者による「評価宣言」と「ロードマップ」の作成
- 評価に関する用語の邦訳と定義の明確化
- 日本語による「ロジックモデル」や「変化の理論」等の基本ツールの手引書の整備
- 海外の先行文献のリスト化と主要文献の邦訳化
- 評価の担い手の育成を目的とした講習会とモデル事業の実施
- 評価事例（ベスト・プラクティス）の蓄積とピア・レビューの実施による知識の共有化

社会的インパクト評価イニシアチブ設立検討会合（2016年6月2日）

約30団体の代表による意見交換を実施



社会的インパクト評価イニシアチブの設立とシンポジウムの開催（6月14日）

- ✓ 社会的インパクト評価の普及を目的として、2016年6月14日に「Social Impact Day 2016 – いよいよ動き出す社会的インパクト評価の未来 –」を開催。
- ✓ 参加受付開始から5日で300名の定員に達するなど、日本における社会的インパクト評価に対する関心の高さと機運の高まりを感じさせた。
- ✓ 評価ツールセットおよび評価実践マニュアルの発表。
- ✓ 日本で社会的インパクト評価を推進するための民間イニシアチブ「社会的インパクト評価イニシアチブ」の設立発表。



取り組みの紹介： Inspiring Impact

社会的インパクト評価推進にあたっては、民間の推進プラットフォームであるInspiring Impactが中心的な役割を果たしている



ビジョン： 2022年までに質の高い社会的インパクト評価をソーシャルセクターに普及させる

参画団体：



Association of
Charitable
Foundations

業界団体
(助成財団)



National Council
of Voluntary
Organizations

業界団体
(非営利組織)



Building Trust
Change

非営利組織向け基金



Charities
Evaluation
Services

評価機関



Evaluation
Support
Scotland

評価機関



New
Philanthropy
Capital

シンクタンク



Substance

シンクタンク

- 事業内容：**
1. 社会的インパクト評価の啓発（対事業者および対資金提供者）
 2. 社会的インパクト評価の実践支援（Measuring Up!、Impact Hub）
 3. 社会的インパクト評価の標準的な評価ツールの開発（Shared Measurement）

取り組みの紹介：ロードマップ

ロードマップが関係者間の合意で作られた上で、戦略的に施策が実施されている

	2012年	2013-15年	2016-22年	10年先の目標	
リーダーシップとカルチャー	<ul style="list-style-type: none"> インパクト測定のエビデンスを構築する 業績管理の評価から、測定に関する明確な定義を創り出す 	<ul style="list-style-type: none"> インパクト評価の原則を開発する インパクト・アプローチのケースを創る 	<ul style="list-style-type: none"> インパクト評価の原則を受け入れる 増加するインパクトアプローチへのコミットメント インパクトリーダーシップが実践される 	<ul style="list-style-type: none"> 多くのプロバイダーが、インパクト・アプローチを組み込んでいる 	<p>何千ものプロバイダーのカルチャーにインパクト・サイクルが組み込まれている。</p> <p>自分のサービスのインパクトについて、一貫した計画を行い、管理し、測定し、コミュニケーションをとっている。</p>
ファンダー、コミッショナー、投資家 (F, C&I)	<ul style="list-style-type: none"> インパクトファンダーのコミュニティを形成する インパクト評価からの失敗と学習のスペースを創出 ファンダーは、自身及び投資先に対するインパクトアプローチの価値を認識する 	<ul style="list-style-type: none"> 20のファンダーが評価宣言にサイン 助成先に対するインパクト評価支援の原則及びガイドラインが存在する 増加するF, C&Isに対するインパクト評価へのコミットメント 	<ul style="list-style-type: none"> ファンダーがインパクト報告の原則を受け入れる インパクト評価にアクセスするプロバイダーは、ファンダーから支援 インパクトと連携した実践を組み込まれているファンダー 	<ul style="list-style-type: none"> コミッショナーは、実際（歴史的な）の業績に対する目標をデザインしている。 ファンディングの決定と報告は、インパクトに焦点をあてている 	<p>ファンダー、コミッショナー、投資家の大半は、インパクト・アプローチを採用している。</p> <p>インパクト・サイクルは、組織のカルチャーに組み込まれており、プロバイダーへのインパクトアプローチに誘引を与え、支援している。</p>
社会的インパクト評価支援 (IMS)	<ul style="list-style-type: none"> 共通診断/自己評価が利用可能 用語について合意（インパクト、アウトカム、アウトプット） 	<ul style="list-style-type: none"> インパクト評価アプローチに関する簡単なガイドラインが利用可能 	<ul style="list-style-type: none"> 組織は、自分が必要とする支援にアクセスできる（明確なアクセスポイントを経由して） 多くの組織が、インパクト評価アプローチや、使用するD,T&Sの開発方法を知っている 	<ul style="list-style-type: none"> 支援のインパクトがレビューされ、その価値が知られている 多くの組織が、自分が必要とするD,T&Sの支援にアクセスする 	<p>効率的な支援のネットワークが存在する。</p> <p>分野別アプローチにリンクしており、ベスト・プラクティスに従っている。大半の組織は、必要とされる支援のことやその使い方を知っている。</p>
データ、ツール、システム (D, T&S)	<ul style="list-style-type: none"> ツールに関するガイドラインを提供する D,T&Sの市場を育成 	<ul style="list-style-type: none"> ツールのベネフィットや挑戦をレビューする 政府のデータ共有のパイロット事業 	<ul style="list-style-type: none"> SMのD,T&Sが広範に利用可能 データ共有の青写真 	<ul style="list-style-type: none"> プロバイダーが、ツールやシステムの使い方を知っている 法令により公開され、アクセス可能な政府の主要データ D,T&Sの利用が規範・標準となっている 政府のデータにアクセスすることが、標準となっている 	<p>適切かつ、充分な量の、アクセス可能なデータ、ツール、システムが存在する。</p> <p>それらは、質、比較可能性の点で標準を満たしており、よいインパクト測定(good impact measurement)の実践を支援する。</p>
Shared Measurement (SM)	<ul style="list-style-type: none"> SMを複数の分野でテストする SMのベネフィットと課題をレビューする 	<ul style="list-style-type: none"> SMの原則に同意する SMの青写真に同意する 	<ul style="list-style-type: none"> SMチャンピオンとスポンサーが契約する 	<ul style="list-style-type: none"> F, C&Isによって活用されるSM 役に立つエビデンスとの連携によって、組み込まれたSM 	<p>Shared measurementアプローチが、大半の分野で適用されている。</p> <p>標準的な手法と指標が利用され、何が作用しているのかについて識別するために共有されている。</p>
			Inspiring Impactが実施すべき優先事項	Inspiring Impactが実施できる優先事項	Inspiring Impactのスコープの外にある優先事項

2016年度開始予定の主なプロジェクト

プロジェクト毎に必要なに応じてプロジェクト・メンバーを募集予定です。

1. 社会的インパクト評価推進のためのロードマップの作成と推進

- ・ 作業部会立ち上げ、メンバー募集（6月）
- ・ 第1回作業部会（8月5日）
- ・ イニシアチブメンバーによる意見交換会、同日に第2回作業部会（9月上旬）
- ・ 9月末に発表（ソーシャル・イノベーション・フォーラム）
- ・ 第3回作業部会（10月上旬）
- ・ パブリックコメント（11月）、第4回作業部会（11月下旬）
- ・ 発表（12月予定）

⇒ロードマップのテーマ毎に作業部会を設置しメンバーを募集する。

2. 評価ツールの作成 ※G8NABとの連携事業

- ・ 実践マニュアルVol.2の開発・発表（8月～）
- ・ 教育分野をブラッシュアップするプロジェクトを開始（8月～）
- ・ 新しい分野の評価ツール開発プロジェクトを開始（文化芸術・環境など）（8月～）

1. 評価ツールや情報を集約するリソースセンター（Webサイト）の運営

- ・ 6月14日にβ版公開
- ・ 定期的にアップデート

1. 評価事例（ベスト・プラクティス）の蓄積とピア・レビューの実施による知識の共有化

- ・ 内閣府において社会的インパクト評価実践のモデル事業開始（5月～）

イニシアチブ 2016年度年間スケジュール（予定）

6月2日(木):設立準備会合

6月14日(火):オープンシンポジウム開催 ※イニシアチブ設立発表

8月5日:イニシアチブ会合(第1回)

9月上旬:イニシアチブ会合(第2回)※ロードマップ意見交換会

2017年2月:イニシアチブ会合(第3回)

※上記の他にピアレビュー・勉強会、ロードマップ意見交換会などは別途開催する。